

診療に関するお知らせ

輸血を拒否される患者さんに対する基本方針

当院では、患者さんとの信頼関係を第一に考え、医療の実施にあたり、十分な説明と患者さんからの同意（インフォームド・コンセント）に努めております。

その中で、最近、宗教上の理由から輸血を拒否される患者さんがおられます。

私たちは、無輸血又は必要最小限度の輸血で診療を行っておりますが、手術をはじめとする診療中に「生命の危機」が生じ、医学上の見地から輸血をせざるを得ないと判断した場合においては、宗教的理由などから輸血を拒否される患者さんに対しても、輸血を実施する立場をとっています（いわゆる「相対的無輸血」）。今後、当院では、この「相対的無輸血」の立場で診療を行ってまいりますので、ご理解のうえ、ご協力のほどお願い申し上げます。

〈相対的無輸血とは〉

患者さんの意志を尊重して可能な限り無輸血治療に努力するが、「輸血以外に救命手段がない」事態に至ったときは輸血をするという立場・考え方。

〈絶対的無輸血とは〉

患者さんの意志を尊重し、たとえいかなる事態になっても輸血をしないという立場・考え方。